vinetur

チリの上半期ワイン輸出額、2021年以来の低水準

瓶詰めワインの出荷減少が主要市場の大半で収益を押し下げ、チリのワイン輸出額は15.3％減の5億6,848万ユーロとなった

2026年11月13日（金）



チリの1～6月のワイン輸出額は5億6,848万ユーロとなり、2025年の同じ時期を約1億300万ユーロ下回った。出荷量の減少と平均価格の下落により、ほぼすべての主要な製品カテゴリーと市場で売上が落ち込んだ。

スペインワイン産業間組織（OIVE）が公表した報告書によると、2026年上半期の輸出額は15.3％減少した。数値は、Trade Data Monitorが集計したチリ税関データに基づく。輸出量は12.7％減の3億476万リットルだった。平均輸出単価は約1.87ユーロとなり、3％近く下落した。チリはワインの総出荷量が減っただけでなく、輸出したワイン1リットル当たりの平均収入も減少した。

落ち込みの大半を占めたのは、チリの輸出形態として圧倒的な主力である容器入りワインだった。2リットル未満の容器入りワイン、スパークリングワイン、バッグ・イン・ボックスを含むこのカテゴリーの輸出額は4億8,571万ユーロで、前年同期比15.8％減となった。出荷量は11.9％減の1億9,108万リットル、平均単価は4.4％下落して1リットル当たり2.54ユーロだった。容器入りワインは輸出額全体の85.4％を占め、輸出額の減少分の約89％、約9,100万ユーロを占めた。

このカテゴリーでは、2リットル未満の容器入りワインが引き続き中核を担った。同品目の輸出額は14.5％減の4億7,541万ユーロ、出荷量は9.2％減の1億8,640万リットルだった。平均単価は5.8％下落して1リットル当たり2.55ユーロとなった。この品目だけでワイン輸出額全体の83.6％を占め、輸出額全体の減少分のうち推定8,060万ユーロを占めた。

バッグ・イン・ボックスは、減少率が最も大きかった。2〜10リットルの形態の売上は65.5％減の493万ユーロ、出荷量は68.9％減の302万リットルとなった。平均単価は10.8％上昇して1リットル当たり1.63ユーロとなったが、出荷量の急減を補うには至らなかった。小規模なカテゴリーではあるものの、バッグ・イン・ボックスの輸出額は2025年上半期に比べて約940万ユーロ減少した。

スパークリングワインも低迷した。輸出額は19.8％減の538万ユーロ、出荷量は11.3％減の166万リットルだった。平均単価は9.6％下落して1リットル当たり3.24ユーロとなった。報告書の製品カテゴリーの中では、スパークリングワインの平均単価はなお最も高かったが、単価の下落率も最大だった。

バルクワインは金額ベースでは比較的底堅かったものの、こちらも減少した。輸出額は12.3％減の8,277万ユーロ、出荷量は14.1％減の1億1,368万リットルだった。容器入りワインとは異なり、バルクワインの平均単価は2.1％上昇して1リットル当たり0.73ユーロとなった。バルクワインは輸出量全体の37.3％を占めた一方、輸出額に占める割合は14.6％にとどまり、このカテゴリーの収益性の低さが浮き彫りになった。

報告書の過去との比較によると、上半期の輸出額は少なくとも2021年以来、1〜6月期として最も低い水準となった。輸出額全体は、2022年上半期に記録した8億8,620万ユーロから約35.9％減少した。2026年の容器入りワインの輸出額も、比較対象期間で最低だった。一方、出荷量は1億9,110万リットルと、2023年上半期の1億9,080万リットルをわずかに上回った。つまりチリは、2023年上半期とほぼ同量の容器入りワインを出荷したものの、輸出額は約7,290万ユーロ少なかった。バルクワインの輸出額は、2022年に1億5,510万ユーロを記録して以降、上半期として4年連続で減少し、2026年はその水準を約46.6％下回った。

輸出先別では、上位10市場の輸出額は計4億700万ユーロで、全体の71.6％を占めた。金額ベースで上位10市場のうち増加したのはブラジルだけだった。ブラジル向けは7.3％増の8,660万ユーロとなり、2026年上半期のチリ最大の輸出先となった。出荷量は9％増の3,650万リットルだった。出荷量の伸びが輸出額の伸びを上回ったため、平均単価は約1.6％低下して1リットル当たり2.37ユーロとなった。ブラジル向けの増加は約590万ユーロに上り、チリのワイン輸出額に占める同国の割合は15.2％に上昇した。

輸出額では英国が2位、出荷量では1位だった。チリは英国に7,080万ユーロ相当のワインを輸出し、輸出額は9.5％減少した。出荷量は7.7％減の4,500万リットルだった。平均単価は約1リットル当たり1.57ユーロで、英国向けの出荷量はブラジルを850万リットル上回ったものの、単価はブラジル

向けを下回った。金額ベースで3位の日本向けは、18.3%減の4,770万ユーロだった。日本向けの出荷量は比較的小幅な5.7%減の2,780万リットルにとどまったため、平均単価は約13.4%下落して1リットル当たり1.72ユーロとなった。

主要輸出先のうち、金額ベースで最も大きく落ち込んだのは米国と中国だった。米国向けの輸出額は37.6%減の4,470万ユーロ、出荷量は36.1%減の2,540万リットルとなり、前年同期から約2,690万ユーロ減少した。中国向けは34.5%減の4,210万ユーロ、出荷量は52.3%減の1,540万リットルとなり、輸出額をさらに2,220万ユーロ押し下げた。この2市場だけで、輸出額の減少分は計約4,910万ユーロに上り、上半期のチリの輸出額全体の減少分の48%近くを占めた。

この2市場では、金額と数量の動きに大きな違いがあった。米国向けの平均単価は約2.3%低下して1リットル当たり1.76ユーロとなり、出荷量の減少とおおむね同じ動きを示した。一方、中国向けは出荷量が輸出額を大幅に上回るペースで減少したため、平均単価は約37.3%上昇して1リットル当たり2.73ユーロとなった。報告書は、これらの平均単価は各輸出先に送られたワイン全体の数値であり、それだけでは、価格の変化が同じワインの値上げによるものか、輸出品目の構成変化によるものかは分からないと指摘している。

カナダも同様の傾向を示したが、変動幅はより小さかった。カナダ向けの輸出額は6.5%減の3,620万ユーロだった一方、出荷量は28.9%減の1,540万リットルとなった。これにより平均単価は約31.5%上昇して1リットル当たり2.35ユーロとなり、金額の減少は約250万ユーロに抑えられた。金額ベースで上位10市場のうち、オランダ向けは2,290万ユーロで13.1%減、メキシコ向けは2,010万ユーロで9.8%減、アイルランド向けは1,860万ユーロで13.1%減、韓国向けは1,730万ユーロで18.4%減だった。メキシコ向けの出荷量は1%減の1,410万リットルにとどまったことから、輸出額の落ち込みは主に平均単価の低下によるもので、単価は約8.9%下落した。

輸出額上位市場以外でも、輸出量ベースでは輸出先の構成が変化した。スペインは金額ベースの上位10市場には入らなかったが、チリからの輸入量が255.1%増の2,420万リットルとなり、2025年上半期から約1,740万リットル増加したことで、数量ベースでは5位に浮上した。デンマーク向けも増加し、出荷量は53.8%増の990万リットルとなった。一方、ドイツ向けは32.1%減の1,000万リットルだった。